

経済フォーカス

トップ
VIEW

社員も経営者の視点

人気企業の秘訣

秦 一氏 (琉球光和社長)

人材不足が深刻となる中、10年連続で人気企業トップ10にランキングされている琉球光和。患者支援、医療施設支援、医療人支援の3軸で事業を展開する総合医療機器メーカーだ。独自の採用活動などで注目を集めている。秦一社長に、採用活動の秘訣や医療業界の今後などについて聞いた。

—10年連続人気企業でいられる秘訣は。

「琉球光和という企業に対してのランキングではなく、学生が医療分野に注目しているという部分が多分にあると思う。最近の学生は貢献欲があり、自分が社会の中で何ができるかというところに存在意義を感じたいという人が多く、選ばれたのだと感じる。学生は敏感なので、沖縄の医療に可能性を感じているところがある」

—沖縄の医療の可能性とは。

「沖縄は気候が良く、地理的条件も良い。東アジアからも近く、医療ツーリズムなどで外国人が日本の高度医療が受けられる可能性がある。少子高齢の影響もまだ受けておらず、医療をするのに非常に魅力のある場所だ。そこで、医療に携われるというのは非常にありがたいことだ」

—独自の入社試験などの取り組みについては。

「自分たちがどう頑張ると、どう貢献できるのかということを気付かせてあげなくてはならない。外から見ると、奇をてらったような選考活動に見えるが、社員が考えて実行している。その中には琉球光和のメッセージが入っている」

—琉球光和のメッセージとは。

「医療は医者や看護師などチームワークが必要。ただ、頭が良い人が1人いればいいというわけではない。だから、琉球光和の選考活動は、複数の人と分担しないと、解けないようになっている。医療などの前知識がなくても『一緒に頑張ればできますよ』という形を込めたものを考えて社員らがつくっている。だから、半分は採用活動だけど、半分は社員たちの共有する活動となっている」

—琉球光和における社長の役割とは。

「社長として、大きな意味でビジネスモデルをつくったり、働く環境をつくるが、社員が経営者になっていく過程をつくっていくことが社長の役割だと考える。社員が経営者という視点で仕事をするすることで、『自分たちで会社を変えるんだ』という気持ちを持てる」

—社員が経営者の視点を持ってどう変わったか。

「採用活動もそうだが、給与評価や事業評価なども社員らが考えて決めるようになっていく。社員らは自分たちの働く環境だったり、どうすれば会社が良くなるか、常に考えて行動している。そして、社員間のコミュニケーションがすごく良い。情報を共有し、やりがいを持って仕事をしてきている。私も社員から学ばされることが多い。心から社員に感謝している」

—今後の琉球光和のビジョンは。

「沖縄の医療を世界一にしたい。ハード面では世界最先端の医療設備・機器を沖縄に導入し、早期診断や治療を支えていく。ソフト面では医療従事者を対象に医療現場に必要な技術研修を実施し、医



はた・はじめ 1968年生まれ、那覇市出身。1993年ソニー入社。世界初のデジタルビデオカメラの開発に関わる。2002年琉球光和に入社し、代表取締役社長に就任。

療施設のスキルアップを図る。琉球光和として、医療施設、医療従事者、患者全てが安心できる医療環境をつくっていく」

(聞き手 佐々木健)